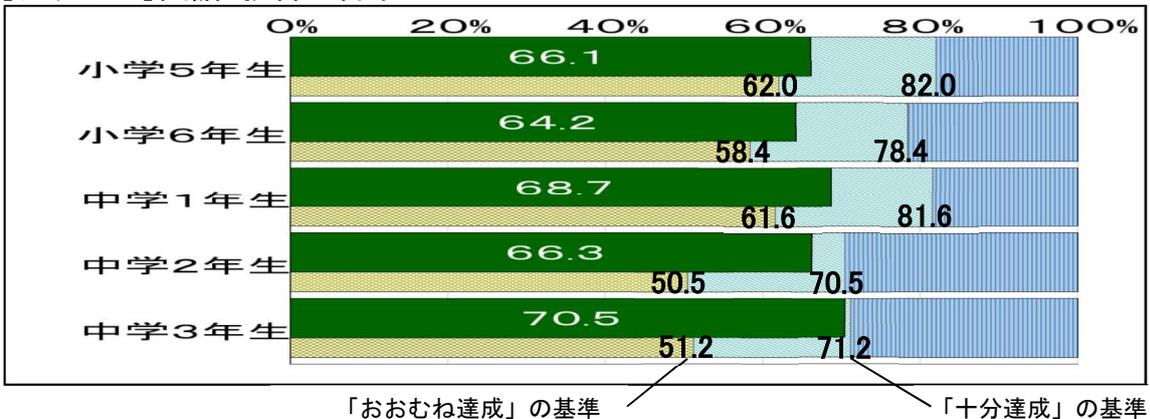


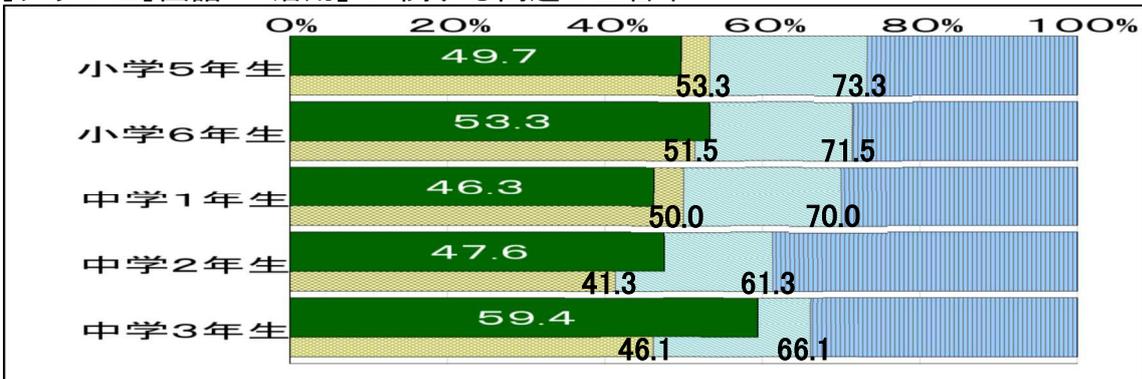
(1) 結果の概要

- 小・中学校共に、教科正答率は、全ての学年において、「おおむね達成」の基準を上回っている。【グラフ1】
- 「活用」に関する問題については、小学5年生と中学1年生で「おおむね達成」の基準を下回っており、課題が見られる。【グラフ2】
- 観点別に見ると、小学6年生と中学2年生、中学3年生は全ての観点で「おおむね達成」の基準を上回っている。また、「言語についての知識・理解・技能」については、全ての学年で「おおむね達成」の基準を上回っている。「話す・聞く能力」については小学5年生、「書く能力」については中学1年生、「読む能力」については小学5年生と中学1年生が「おおむね達成」の基準を下回っており、課題が見られる。【グラフ3～6】
- 内容・領域別に見ると、「漢字の読み」については、全ての学年で「十分達成」の基準を上回っており、「漢字の書き」については、全ての学年で「おおむね達成」の基準を上回っている。「語句に関する知識」については、小学5年生と小学6年生で「おおむね達成」の基準を下回っており、課題が見られる。【グラフ7～11】

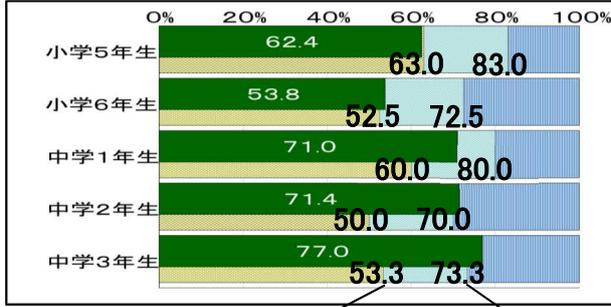
[グラフ1]国語 教科正答率



[グラフ2]国語 「活用」に関する問題の正答率



[グラフ3] 国語 「話す・聞く」 観点の正答率



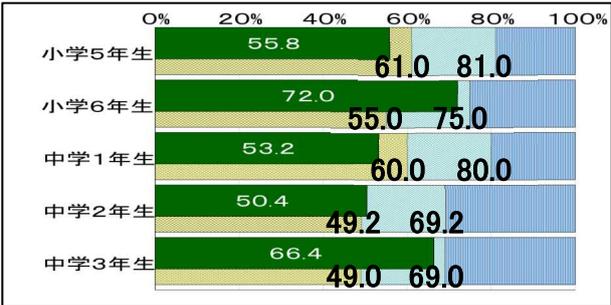
[グラフ4] 国語 「書く」 観点の正答率



「おおむね達成」の基準

「十分達成」の基準

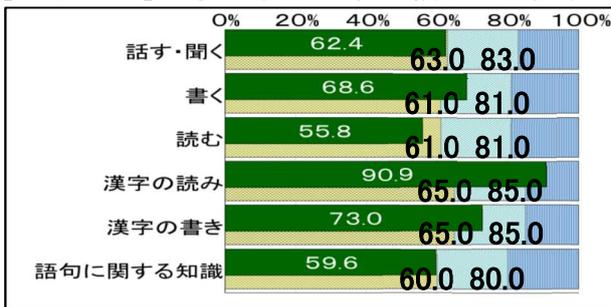
[グラフ5] 国語 「読む」 観点の正答率



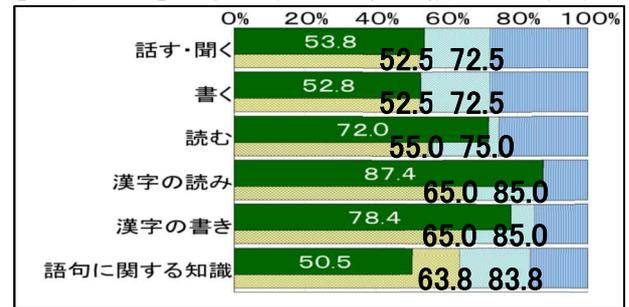
[グラフ6] 国語 「知識・理解・技能」 観点の正答率



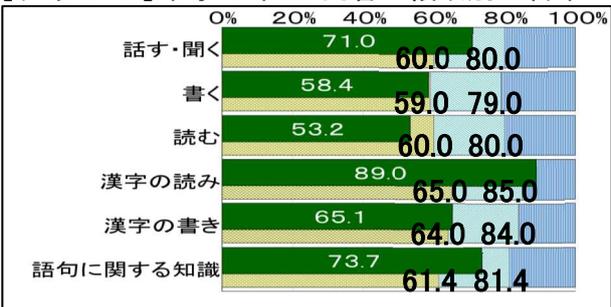
[グラフ7] 小学5年生 内容・領域別正答率



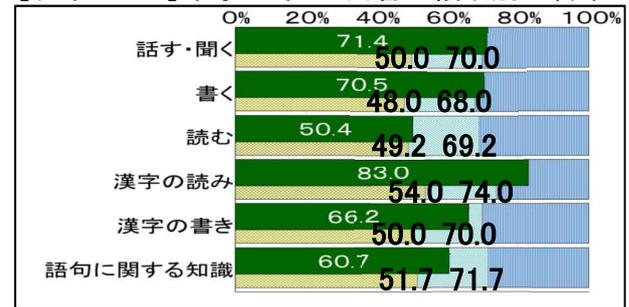
[グラフ8] 小学6年生 内容・領域別正答率



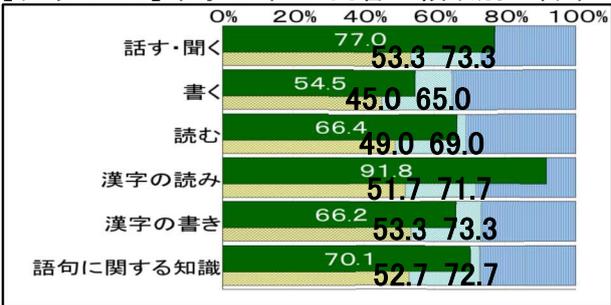
[グラフ9] 中学1年生 内容・領域別正答率



[グラフ10] 中学2年生 内容・領域別正答率



[グラフ11] 中学3年生 内容・領域別正答率



(2) 成果と課題及び指導改善のポイント

小学校国語（小学5年生、小学6年生、中学1年生）

成果(◇)と課題(◆)

- ◇ 平成27年度[12月調査]で「おおむね達成」の基準を下回っていた「間違いを正したり、よりよい表現に書き直したりすること」を問う設問が、「十分達成」の基準を上回っており、改善が見られる。(小学5年生²二)
- ◇ 平成27年度[12月調査]で5問中4問が「おおむね達成」の基準を下回っていた内容・領域「読むこと」において、全ての設問で「おおむね達成」の基準を上回っており、改善が見られる。(小学6年生A問題⁵、⁶、B問題³)
- ◇ 平成27年度[12月調査]で5問中2問が「おおむね達成」の基準を下回っていた内容・領域「話すこと・聞くこと」において、全ての設問で「おおむね達成」の基準を上回っており、改善が見られる。(中学1年生¹)
- ◆1 書こうとすることの中心を明確にして記事を書いたり、伝えたい事柄を分かりやすく書いたりすることに課題が見られる。(小学5年生²一、三)
- ◆2 目的や意図に応じて、グラフを用いて、自分の考えが伝わるように書くことに課題が見られる。(小学6年生B問題²二(1))
- ◆3 文章の内容を踏まえてまとめたり、的確に押さえて要旨を捉えたりすることに課題が見られる。(小学5年生⁴三、中学1年生⁴二)

平成27年度佐賀県小・中学校学習状況調査[12月調査]Web報告書 参照

指導改善のポイント

- ◆1 書こうとすることの中心を明確にして書く力を育成するためには、書く相手や目的がはっきりと分かる学習課題を単元のはじめに設定し、常に意識させながら学習を進めることが大切である。「誰に何を伝えるのか」を明確にさせることで、書こうとすることの中心や伝えたい事柄も明らかになってくる。見出しを付ける学習では、同じテーマを取り扱った新聞記事の見出しを比べ、表現の効果を話し合う指導などが有効である。
- ◆2 グラフを用いて自分の考えを書く力を育成するためには、新聞記事などを参考に、グラフから読み取れる客観的な事実と自分の考えや感想などを区別して書く指導が必要である。また、自分がグラフをどのように読み取ったのか、そこからどのように考えたのかを具体的に記述する学習を行うことが大切である。推敲の際には、グラフから読み取ったことが記述した内容の根拠となっているかどうかを検討させることが大切である。
- ◆3 文章の内容をまとめる力や要旨を捉える力を育成するためには、学習課題を設定する際に、文書の内容をまとめたり要旨を捉えたりする目的や必要性をしっかりと意識させておくことが必要である。全体の構成を捉えさせる発問、事実と意見を区別しながら読ませる発問、形式段落のキーワードを捉えさせる発問などを取り入れ、筆者の考えの中心を読み取らせていく指導が大切である。また、児童が多様な種類の文章を読み、文章の内容をまとめたり要旨を捉えたりする活動を繰り返し取り入れることや、多様な考えをグループで交流し、互いの考えのよさに気付かせることが大切である。

◎ ぜひ、ご活用ください！ → [ここをクリック](#)

佐賀県教育センターのプロジェクト研究では、学習状況調査から見える課題の解決に向けた授業づくりに取り組んでいます。『単元で学び、単元で力を付ける』をキーワードにした授業づくりについて、第4・5学年の「学習指導案」や「ワークシート」を提案しています。授業づくりに役立ててください。

中学校国語（中学2年生、中学3年生）

成果(◇)と課題(◆)

- ◇ 集めた材料を分類するなどして整理することに定着が見られる。(中学2年生²二)
- ◇ 文章の展開に即して情報を整理したり、目的に応じて必要な情報を読み取ったりすることに定着が見られる。(中学3年生A問題⁶一、B問題¹二)
- ◆ 1 文章の中心的な部分と付加的な部分を読み分けたり、文章の構成の特徴を理解したりすることに課題が見られる。(中学2年生³一、二)
- ◆ 2 奥付を使って本の情報を得ることや、課題に応じた情報の収集方法を考えることなどに課題が見られる。(中学3年生A問題⁸二、B問題²三)
- ◆ 3 読んだことを基に根拠を明確にして、自分の考えをもつことに課題が見られる。(中学2年生⁴三、中学3年生B問題³三)

指導改善のポイント

◆ 1 文章の構成の特徴についての理解を深めるためには、一教材で文章の構成を細かく捉えさせるだけではなく、複数の教材を比べて読むなどして、文章がどのような構成になっているのかを意識して読む経験を積ませることで、文章の種類によって構成が異なることに気付かせることが大切である。例えば、鑑賞文であれば、教材の文章を書いた筆者の別の鑑賞文を比べて読ませることによって構成の特徴に気付かせたり、説明的文章や意見文であれば、複数の文章を比べて読ませ、頭括・尾括・双括のどの構成に当たるかを考えさせたりする活動を設定することが大切である。

◆ 2 課題に応じて適切な調査方法を考え、情報を収集する力を育成するためには、必要な情報を調べる活動を行う際に、あらかじめ、教師が調査方法を提示するのではなく、課題に応じた適切な調査方法について、生徒自身に考えさせる場面を設定することが大切である。そのためには、教科書の巻末資料などを用いて、文献調査やインタビュー、アンケートなどの調査方法について事前に学習を行い、それぞれの方法の利点や気を付けるべき点を整理させておくことが大切である。

◆ 3 生徒が課題意識をもって、主体的に読み進め、自分の考えをもつ力を育成するためには、単元の最初に、その単元で行う言語活動を提示し、モデル学習を行うことによって学習のゴールのイメージを具体的にもたせることが大切である。また、比較・分類・関連付け・系統化など、どのように読むのかを生徒が意識できるように、「(教材A)と(教材B)を比べて読み、(言語活動)する」のような形で学習課題に示すことも大切である。さらに、書いたものを再考して自分の考えを再構築したり、人の意見を聞いて思考を深めたりする時間を設定することを繰り返し行うことが必要である。

◎ ぜひ ご活用ください！ → [ここをクリック](#)

佐賀県教育センターのプロジェクト研究では、学習状況調査から見える課題の解決に向けた授業づくりに取り組んでいます。「学習課題設定の工夫」や「主体的な学習を促す言語活動の工夫」をキーワードに、「読むこと」の領域の第1・2学年の「学習指導案」や「ワークシート」を提案しています。授業づくりに役立ててください。

各学年の設問ごとの正答率

[表1] 小学5年生 国語 出題の趣旨、問題形式、正答率等一覧

集計結果

※「◎」は「十分達成」、「▼」は「要努力」を示す

	児童生徒数	正答率	無解答率	到達基準		到達状況
				十分達成	おおむね達成	
県	7,239	66.1	4.2	82.0	62.0	

分類・区別集計

分類	区分	対象設問数(問)	県正答率	県無解答率	到達基準		到達状況
					十分達成	おおむね達成	
学習指導要領の内容・領域等	話す・聞く	5	62.4	1.1	83.0	63.0	▼
	書く	5	68.6	2.1	81.0	61.0	
	読む	5	55.8	4.3	81.0	61.0	▼
	漢字の読み	3	90.9	1.8	85.0	65.0	◎
	漢字の書き	3	73.0	5.7	85.0	65.0	
	語句に関する知識	6	59.6	8.8	80.0	60.0	▼
評価の観点	①話す・聞く	5	62.4	1.1	83.0	63.0	▼
	②書く	5	68.6	2.1	81.0	61.0	
	③読む	5	55.8	4.3	81.0	61.0	▼
	④知識・理解・技能	12	70.8	6.3	82.5	62.5	
問題形式	選択式	13	64.6	1.5	83.5	63.5	
	短答式	11	72.2	6.6	82.7	62.7	
	記述式	3	49.7	7.0	73.3	53.3	▼
活用	「活用」に関する問題	3	49.7	7.0	73.3	53.3	▼

※一つの設問が複数の区分に該当する場合があるため、それぞれの分類について各区分の設問数を合計した数は、実際の設問数とは一致しない場合がある。

設問別集計結果

問題番号	出題の趣旨	学習指導要領の内容・領域等					評価の観点				問題形式			活用 「活用」に関する問題	県正答率	県無解答率	期待正答率			到達状況
		話す・聞く	書く	読む	漢字の読み	漢字の書き	語句に関する知識	①話す・聞く	②書く	③読む	④知識・理解・技能	選択式	短答式				記述式	問題分類	十分達成	
1	一	話の中心に気を付けて聞く	○					○							77.5	0.1	A	85	65	
1	二	必要な事柄を、取材しまとめる	○					○							28.5	0.4	A	85	65	▼
1	三	聞き手の反応を見ながら話す	○					○							77.4	0.2	A	85	65	
1	四	相手や目的に応じて、理由を挙げながら筋道を立てて話す	○					○							60.9	0.3	A	85	65	▼
1	五	聞いた事柄を基に、分からない点や確かめたい点を質問する	○					○				○	○		67.9	4.7	C	75	55	
2	一	書こうとすることの中心を明確にして、伝えたい事柄を分かりやすく書く	○					○							63.1	0.3	A	85	65	▼
2	二	間違いを正したり、よりよい表現に書き直したりする	○					○			○				80.0	2.3	B	80	60	◎
2	三	メモを基に、書こうとすることの中心を明確にして記事を書く	○					○				○	○		35.9	4.9	D	70	50	▼
2	四	目的や必要に応じて、表を取り上げて書く	○					○							79.0	1.0	A	85	65	
2	五	目的に応じて書いているか表現を検討する	○					○							84.9	1.8	A	85	65	
3	一	詩の描写を捉えて、想像力を働かせながら読む	○					○				○			42.1	3.5	B	80	60	▼
3	二	場面の様子がよく分かるように、工夫して音読する	○					○							74.6	1.7	A	85	65	
4	一	目的に応じて、中心となる語を捉える	○					○							52.8	1.8	A	85	65	▼
4	二	事実と意見とを区別して読む	○					○							64.3	3.2	B	80	60	

設問別集計結果

問題番号	出題の趣旨	学習指導要領の内容・領域等				評価の観点				問題形式		活用 「活用」に関する問題	県正答率	県無解答率	期待正答率		到達状況	
		話す・聞く	書く	読む	漢字の書き 漢字の読み	語句に関する知識	①話す・聞く	②書く	③読む	④知識・理解・技能	選択式				短答式	記述式		問題分類
4	三	文章の内容を踏まえ、様式に合わせてまとめる	○					○			○	○	45.3	11.3	C	75	55	▼
5	一1	文脈に即して漢字を正しく読む「花粉」		○				○		○			97.1	1.6	A	85	65	◎
5	一2	文脈に即して漢字を正しく読む「種類」		○				○		○			96.6	1.6	A	85	65	◎
5	一3	文脈に即して漢字を正しく読む「唱える」		○				○		○			79.1	2.3	A	85	65	
5	二1	文脈に即して漢字を正しく書く「洋服」			○			○		○			75.4	4.2	A	85	65	
5	二2	文脈に即して漢字を正しく書く「曲がる」			○			○		○			75.8	6.1	A	85	65	
5	二3	文脈に即して漢字を正しく書く「研究」			○			○		○			67.9	7.0	A	85	65	
5	三	国語辞典の使い方について理解する				○		○		○			32.2	2.3	B	80	60	▼
5	四①	慣用句の意味を知る「馬が合う」				○		○		○			72.7	3.0	B	80	60	
5	四②	慣用句の意味を知る「水に流す」				○		○		○			72.5	3.1	B	80	60	
5	五①	ローマ字で書く「sora」				○		○		○			53.5	11.9	B	80	60	▼
5	五②	ローマ字で表記されたものを読む「がっき」				○		○		○			64.2	15.2	B	80	60	
5	五③	ローマ字で表記されたものを読む「じてんしゃ」				○		○		○			62.3	17.4	B	80	60	

[表2] 小学6年生 国語 出題の趣旨、問題形式、正答率等一覧

集計結果 ※「◎」は「十分達成」、「▼」は「要努力」を示す

	児童生徒数	正答率	無解答率	到達基準		到達状況
				十分達成	おおむね達成	
県	7,436	64.2	2.9	78.4	58.4	

分類・区別集計

分類	区分	対象設問数(問)	県正答率	県無解答率	到達基準		到達状況
					十分達成	おおむね達成	
学習指導要領の内容・領域等	話す・聞く	4	53.8	1.1	72.5	52.5	
	書く	8	52.8	2.8	72.5	52.5	
	読む	5	72.0	2.5	75.0	55.0	
	漢字の読み	3	87.4	1.6	85.0	65.0	◎
	漢字の書き	3	78.4	3.1	85.0	65.0	
	語句に関する知識	4	50.5	8.0	83.8	63.8	▼
評価の観点	①話す・聞く	4	53.8	1.1	72.5	52.5	
	②書く	8	52.8	2.8	72.5	52.5	
	③読む	5	72.0	2.5	75.0	55.0	
	④知識・理解・技能	10	69.9	4.6	84.5	64.5	
問題形式	選択式	12	66.9	0.7	77.5	57.5	
	短答式	9	68.6	5.0	84.4	64.4	
	記述式	4	46.3	4.9	67.5	47.5	▼
活用	「活用」に関する問題	10	53.3	2.7	71.5	51.5	

※一つの設問が複数の区分に該当する場合があるため、それぞれの分類について各区分の設問数を合計した数は、実際の設問数とは一致しない場合がある。

設問別集計結果

問題番号	出題の趣旨	学習指導要領の内容・領域等					評価の観点				問題形式			活用 「活用」に関する問題	県正答率	県無解答率	期待正答率			到達状況
		話す・聞く	書く	読む	漢字の読み	漢字の書き	語句に関する知識	①話す・聞く	②書く	③読む	④知識・理解・技能	選択式	短答式				記述式	問題分類	十分達成	
A 問題	1-1	学年別漢字配当表に示されている漢字を正しく読む			○				○			○			81.2	2.2	A	85	65	
	1-2	学年別漢字配当表に示されている漢字を正しく読む			○				○			○			98.8	0.2	A	85	65	◎
	1-3	学年別漢字配当表に示されている漢字を正しく読む			○				○			○			82.1	2.3	A	85	65	
	1-21	学年別漢字配当表に示されている漢字を正しく書く				○				○		○			92.2	2.0	A	85	65	◎
	1-22	学年別漢字配当表に示されている漢字を正しく書く				○				○		○			74.9	4.7	A	85	65	
	1-23	学年別漢字配当表に示されている漢字を正しく書く				○				○		○			68.1	2.5	A	85	65	
	2	目的や意図に応じて、収集した情報を関係付けながら話し合う	○						○			○			78.5	0.1	B	80	60	
	3	書き手の表現の仕方をよりよくするために助言する	○						○			○			64.8	0.1	B	80	60	
	4	目的や意図に応じて、書く事柄を整理する	○						○			○			76.1	0.1	B	80	60	
	5	目的に応じて、図と表とを関係付けて読む			○					○		○			92.0	0.1	B	80	60	◎
	6	登場人物の人物像について、複数の叙述を基にして捉える			○					○		○			61.9	0.7	B	80	60	
	7-アイ	用紙全体との関係に注意し、文字の大きさや配列などを決める				○				○		○			82.0	0.4	A	85	65	
	8-1	平仮名で表記されたものをローマ字で書く				○				○		○			36.0	8.8	A	85	65	▼
	8-2	平仮名で表記されたものをローマ字で書く				○				○		○			33.6	9.4	B	80	60	▼

設問別集計結果

B
問
題

問題番号	出題の趣旨	学習指導要領の内容・領域等				評価の観点				問題形式		活用 「活用」に関する問題	県正答率	県無解答率	期待正答率			到達状況
		話す・聞く	書く	読む	漢字の書き	漢字の読み	語句に関する知識	①話す・聞く	②書く	③読む	④知識・理解・技能				選択式	短答式	記述式	
8	3	ローマ字で表記されたものを正しく読む											50.3	13.3	A	85	65	▼
1	一	目的に応じて、質問したいことを整理する	○					○				○	49.9	0.1	C	75	55	▼
1	二	質問の意図を捉える	○					○				○	49.4	0.1	D	70	50	▼
1	三	話し手の意図を捉えながら聞き、話の展開に沿って質問する	○	○				○	○			○	37.2	4.0	E	65	45	▼
2	一	グラフを基に、分かったことを的確に書く	○					○				○	42.9	0.4	C	75	55	▼
2	二(1)	目的や意図に応じて、グラフを基に、自分の考えを書く	○					○				○	36.4	3.6	D	70	50	▼
2	二(2)	目的や意図に応じて、表を基に、自分の考えを書く	○					○				○	57.1	4.3	D	70	50	
2	三	活動報告文において、課題を取り上げた効果を捉える	○					○				○	53.6	2.5	C	75	55	▼
3	一	目的に応じて、複数の本や文章などを選んで読む		○					○			○	75.1	1.9	C	75	55	◎
3	二	目的に応じて、本や文章を比べて読むなど効果的な読み方を工夫する		○					○			○	76.5	2.2	C	75	55	◎
3	三	目的に応じて、文章の内容を的確に押さえ、自分の考えを明確にしなが読む	○	○				○	○			○	54.7	7.6	E	65	45	

[表3] 中学1年生 国語 出題の趣旨、問題形式、正答率等一覧

集計結果

※「◎」は「十分達成」、「▼」は「要努力」を示す

	児童生徒数	正答率	無解答率	到達基準		到達状況
				十分達成	おおむね達成	
県	7,394	68.7	5.4	81.6	61.6	

分類・区別集計

分類	区分	対象設問数(問)	県正答率	県無解答率	到達基準		到達状況
					十分達成	おおむね達成	
学習指導要領の内容・領域等	話す・聞く	5	71.0	1.5	80.0	60.0	
	書く	5	58.4	3.1	79.0	59.0	▼
	読む	5	53.2	6.0	80.0	60.0	▼
	漢字の読み	5	89.0	3.2	85.0	65.0	◎
	漢字の書き	5	65.1	14.1	84.0	64.0	
	語句に関する知識	7	73.7	4.6	81.4	61.4	
評価の観点	①話す・聞く	5	71.0	1.5	80.0	60.0	
	②書く	5	58.4	3.1	79.0	59.0	▼
	③読む	5	53.2	6.0	80.0	60.0	▼
	④知識・理解・技能	17	75.7	7.0	83.2	63.2	
問題形式	選択式	14	70.1	2.9	82.1	62.1	
	短答式	15	72.0	7.1	83.3	63.3	
	記述式	3	46.3	8.0	70.0	50.0	▼
活用	「活用」に関する問題	3	46.3	8.0	70.0	50.0	▼

※一つの設問が複数の区分に該当する場合があるため、それぞれの分類について各区分の設問数を合計した数は、実際の設問数とは一致しない場合がある。

設問別集計結果

問題番号	出題の趣旨	学習指導要領の内容・領域等					評価の観点				問題形式		活用 「活用」に関する問題	県正答率	県無解答率	期待正答率			到達状況
		話す・聞く	書く	読む	漢字の読み	漢字の書き	語句に関する知識	①話す・聞く	②書く	③読む	④知識・理解・技能	選択式				短答式	記述式	問題分類	
1	一	話し手の意図を捉えながら聞く	○					○						80.1	0.2	A	85	65	
1	二	目的や意図に応じて、事柄が明確に伝わるように話の構成を工夫する	○					○						90.7	0.2	A	85	65	◎
1	三	目的に応じて、発言内容を簡潔にする	○					○			○			64.8	2.6	B	80	60	
1	四	立場や意図をはっきりさせながら計画的に話し合う	○					○						61.7	1.5	B	80	60	
1	五	目的や意図に応じて、事柄が明確に伝わるように資料を基にして話す	○					○			○	○		57.6	3.0	D	70	50	
2	一	目的や意図に応じて、必要な内容を適切に書き加える	○					○						75.0	1.8	B	80	60	
2	二	目的や意図に応じて、必要な内容を適切に引用して書く	○					○						44.0	6.6	B	80	60	▼
2	三	目的や意図に応じて、記述の仕方を工夫する	○					○						62.4	0.6	A	85	65	▼
2	四	目的や意図に応じて、リーフレットにタイトルを付ける	○					○						66.2	0.6	B	80	60	
2	五	目的や意図に応じて、条件に合わせて書く	○					○				○	○	44.7	6.1	D	70	50	▼
3	一	叙述を基に描写を捉える	○					○						61.3	6.2	B	80	60	
3	二	行動や情景などから、登場人物の気持ちの変化を捉える	○					○						64.6	1.9	B	80	60	
4	一	文章の内容を的確に捉える	○					○						64.0	3.6	A	85	65	▼
4	二	文章の内容を的確に押さえて要旨を捉える	○					○						39.2	3.3	A	85	65	▼

設問別集計結果

問題番号	出題の趣旨	学習指導要領の内容・領域等					評価の観点				問題形式		活用 「活用」に関する問題	県正答率	県無解答率	期待正答率			到達状況
		話す・聞く	書く	読む	漢字の読み	漢字の書き	語句に関する知識	①話す・聞く	②書く	③読む	④知識・理解・技能	選択式				短答式	記述式	問題分類	
4	三	文章の要旨を捉え、そのことについての自分の考えを明確にする		○					○			○	○	36.6	15.0	D	70	50	▼
5	一1	文脈に即して漢字を正しく読む(訓読みの漢字)「反らす」			○				○		○			71.1	6.1	A	85	65	
5	一2	文脈に即して漢字を正しく読む(音読みの熟語)「価値」			○				○		○			92.1	2.2	A	85	65	◎
5	一3	文脈に即して漢字を正しく読む(音読みの熟語)「民衆」			○				○		○			90.2	2.6	A	85	65	◎
5	一4	文脈に即して漢字を正しく読む(訓読みの漢字)「混じる」			○				○		○			96.3	2.3	A	85	65	◎
5	一5	文脈に即して漢字を正しく読む(訓読みの漢字)「任せる」			○				○		○			95.4	2.7	A	85	65	◎
5	二1	文脈に即して漢字を正しく書く(訓読みの漢字)「慣れた」				○			○		○			51.5	30.1	A	85	65	▼
5	二2	文脈に即して漢字を正しく書く(訓読みの漢字)「志す」				○			○		○			75.3	8.7	A	85	65	
5	二3	文脈に即して漢字を正しく書く(音読みの熟語)「技術」				○			○		○			83.3	6.3	B	80	60	◎
5	二4	文脈に即して漢字を正しく書く(音読みの熟語)「評判」				○			○		○			54.4	14.8	A	85	65	▼
5	二5	文脈に即して漢字を正しく書く(音読みの熟語)「往復」				○			○		○			60.9	10.6	A	85	65	▼
5	三1	熟語の構成について理解する「未」				○			○		○			84.9	3.8	B	80	60	◎
5	三2	熟語の構成について理解する「不」				○			○		○			72.4	4.1	B	80	60	
5	三3	熟語の構成について理解する「無」				○			○		○			87.0	3.7	B	80	60	◎
5	四	熟語の構成について理解する				○			○		○			80.6	4.4	A	85	65	
5	五	漢字の由来について理解する				○			○		○			64.3	5.5	B	80	60	
5	六1	文の中における主語を捉える				○			○		○			49.5	5.2	B	80	60	▼
5	六2	文の中における主語を捉える				○			○		○			77.1	5.2	A	85	65	

[表4] 中学2年生 国語 出題の趣旨、問題形式、正答率等一覧

集計結果

※「◎」は「十分達成」、「▼」は「要努力」を示す

	児童生徒数	正答率	無解答率	到達基準		到達状況
				十分達成	おおむね達成	
県	7,443	66.3	6.9	70.5	50.5	

分類・区別集計

分類	区分	対象設問数(問)	県正答率	県無解答率	到達基準		到達状況
					十分達成	おおむね達成	
学習指導要領の内容・領域等	話す・聞く	5	71.4	2.7	70.0	50.0	◎
	書く	5	70.5	4.3	68.0	48.0	◎
	読む	6	50.4	11.3	69.2	49.2	
	漢字の読み	5	83.0	4.4	74.0	54.0	◎
	漢字の書き	5	66.2	11.8	70.0	50.0	
	語句に関する知識	6	60.7	6.4	71.7	51.7	
評価の観点	①話す・聞く	5	71.4	2.7	70.0	50.0	◎
	②書く	5	70.5	4.3	68.0	48.0	◎
	③読む	6	50.4	11.3	69.2	49.2	
	④知識・理解・技能	16	69.4	7.5	71.9	51.9	
問題形式	選択式	12	65.1	1.7	72.5	52.5	
	短答式	15	72.1	7.9	71.7	51.7	◎
	記述式	5	51.7	16.6	62.0	42.0	
活用	「活用」に関する問題	4	47.6	19.4	61.3	41.3	

※一つの設問が複数の区分に該当する場合があるため、それぞれの分類について各区分の設問数を合計した数は、実際の設問数とは一致しない場合がある。

設問別集計結果

問題番号	出題の趣旨	学習指導要領の内容・領域等					評価の観点				問題形式		活用 「活用」に関する問題	県正答率	県無解答率	期待正答率			到達状況	
		話す・聞く	書く	読む	漢字の読み	漢字の書き	語句に関する知識	①話す・聞く	②書く	③読む	④知識・理解・技能	選択式				短答式	記述式	問題分類		十分達成
1	一	聞き手を意識し、分かりやすい語句を選択して話す	○					○				○			71.1	1.5	B	70	50	◎
1	二	必要に応じて質問しながら聞き取る	○					○				○			89.7	1.3	A	75	55	◎
1	三	事実と意見との関係に注意しながら、具体的な根拠を示して話す	○					○				○			71.0	0.5	A	75	55	
1	四	話合いの話題を捉えながら、自分の考えをまとめ、資料や自分の経験を根拠にして話す	○					○				○	○	56.9	9.4	D	60	40		
1	五	話合いの話題や方向を捉えて的確に話す	○					○				○		68.2	0.6	B	70	50		
2	一	課題に応じて材料を集める	○						○					65.8	0.6	A	75	55		
2	二	集めた材料を分類するなどして整理する(見出しを付ける)	○						○			○		68.1	5.3	C	65	45	◎	
2	三	書いた文章を推敲し、指示する語句を用いて、読みやすく分かりやすい文章にする	○						○					89.3	1.3	B	70	50	◎	
2	四	根拠を明確にして自分の考えを書く	○						○			○	○	57.8	12.4	D	60	40		
2	五	書いたものを読み合って、意見を述べる	○						○					71.4	1.9	B	70	50	◎	
3	一	文章の中心的な部分と付加的な部分を読み分け、内容を的確に捉える	○						○					43.8	1.6	A	75	55	▼	
3	二	文章の構成の特徴を理解する	○						○					46.6	1.9	B	70	50	▼	
3	三	文章に表れているものの見方や考え方を捉え、目的に応じて文章から必要な情報を読み取る	○						○			○	○	51.3	16.8	C	65	45		
4	一	文脈の中における語句の意味を的確に捉え、理解する	○						○					77.8	1.9	A	75	55	◎	

設問別集計結果

問題番号	出題の趣旨	学習指導要領の内容・領域等					評価の観点				問題形式		活用 「活用」に関する問題	県正答率	県無解答率	期待正答率			到達状況
		話す・聞く	書く	読む	漢字の読み	漢字の書き	語句に関する知識	①話す・聞く	②書く	③読む	④知識・理解・技能	選択式				短答式	記述式	問題分類	
4	二	場面の展開に注意して読み、内容を理解する		○					○		○			58.3	6.4	B	70	50	
4	三	文章の表現の特徴について、根拠を明らかにして自分の考えをもつ		○					○		○	○		24.5	39.2	D	60	40	▼
5	一1	文脈に即して漢字を正しく読む(音読みの熟語)「蒸散」			○					○				95.1	1.6	A	75	55	◎
5	一2	文脈に即して漢字を正しく読む(訓読みの漢字)「冒しても」			○					○				62.4	9.4	B	70	50	
5	一3	文脈に即して漢字を正しく読む(音読みの熟語)「干潮」			○					○				78.4	7.1	A	75	55	◎
5	一4	文脈に即して漢字を正しく読む(訓読みの漢字)「試みる」			○					○				80.7	2.8	A	75	55	◎
5	一5	文脈に即して漢字を正しく読む(熟字訓)「迷子」			○					○				98.2	1.1	A	75	55	◎
5	二1	文脈に即して漢字を正しく書く(音読みの熟語)「縮尺」				○					○			56.5	16.4	B	70	50	
5	二2	文脈に即して漢字を正しく書く(訓読みの漢字)「混ぜる」				○					○			77.5	13.9	B	70	50	◎
5	二3	文脈に即して漢字を正しく書く(同訓異字)「温かい」				○					○			63.1	4.0	B	70	50	
5	二4	文脈に即して漢字を正しく書く(音読みの熟語)「演奏」				○					○			71.2	11.9	B	70	50	◎
5	二5	文脈に即して漢字を正しく書く(音読みの熟語、同音の繰り返し)「売買」				○					○			62.8	12.8	B	70	50	
5	三	文節どうしの関係を理解する					○				○			45.2	2.4	B	70	50	▼
5	四	漢字の成り立ちについて理解する					○				○			30.0	2.6	B	70	50	▼
5	五	文字の大きさ、配列などについて理解して書く					○				○			81.9	3.3	A	75	55	◎
5	六1	文語のきまりを知り、主語を考えながら読む					○				○			79.1	11.7	B	70	50	◎
5	六2	歴史的仮名遣いについて理解する					○				○			65.4	8.1	A	75	55	
5	六3	文語のきまりを知り、古文と現代語訳を読み比べて、内容を理解する					○				○			62.4	10.2	B	70	50	

[表5] 中学3年生 国語 出題の趣旨、問題形式、正答率等一覧

集計結果

※「◎」は「十分達成」、「▼」は「要努力」を示す

	児童生徒数	正答率	無解答率	到達基準		到達状況
				十分達成	おおむね達成	
県	7,656	70.5	2.6	71.2	51.2	

分類・区別集計

分類	区分	対象設問数(問)	県正答率	県無解答率	到達基準		到達状況
					十分達成	おおむね達成	
学習指導要領の内容・領域等	話す・聞く	6	77.0	1.0	73.3	53.3	◎
	書く	7	54.5	7.2	65.0	45.0	
	読む	15	66.4	3.0	69.0	49.0	
	漢字の読み	3	91.8	2.5	71.7	51.7	◎
	漢字の書き	3	66.2	7.6	73.3	53.3	
	語句に関する知識	11	70.1	1.4	72.7	52.7	
評価の観点	①話す・聞く	6	77.0	1.0	73.3	53.3	◎
	②書く	7	54.5	7.2	65.0	45.0	
	③読む	15	66.4	3.0	69.0	49.0	
	④知識・理解・技能	17	73.2	2.7	72.6	52.6	◎
問題形式	選択式	28	71.7	0.7	72.3	52.3	
	短答式	11	75.4	4.7	71.8	51.8	◎
	記述式	3	41.1	12.6	58.3	38.3	
活用	「活用」に関する問題	9	59.4	4.5	66.1	46.1	

※一つの設問が複数の区分に該当する場合があるため、それぞれの分類について各区分の設問数を合計した数は、実際の設問数とは一致しない場合がある。

設問別集計結果

問題番号	出題の趣旨	学習指導要領の内容・領域等					評価の観点				問題形式			活用 「活用」に関する問題	県正答率	県無解答率	期待正答率			到達状況
		話す・聞く	書く	読む	漢字の読み	漢字の書き	語句に関する知識	①話す・聞く	②書く	③読む	④知識・理解・技能	選択式	短答式				記述式	問題分類	十分達成	
A 問題	1	一	聞き手の立場を想定し、話の中心的な部分と付加的な部分との関係に注意して話す	○							○				79.3	0.2	A	75	55	◎
	1	二	目的に応じて資料を効果的に活用して話す	○							○				77.7	0.2	A	75	55	◎
	2	一	伝えたい事柄が相手に効果的に伝わるように書く	○						○		○			61.5	2.7	B	70	50	
	2	二	集めた材料を整理して文章を構成する	○							○				73.5	0.2	B	70	50	◎
	3	一	文脈の中における語句の意味を理解する	○						○		○			83.8	0.2	A	75	55	◎
	3	二	登場人物の言動の意味を考え、内容を理解する	○						○		○			89.2	0.3	A	75	55	◎
	4	一	文章を読み返し、文の使い方などに注意して書く	○						○		○			65.0	0.6	B	70	50	
	4	二	伝えたい事柄について、根拠を明らかにして書く	○						○		○			57.8	8.9	B	70	50	
	5	一	相手や場に応じた言葉遣いなどに気を付けて話す	○						○		○			88.0	4.1	B	70	50	◎
	5	二	全体と部分との関係に注意して話を構成する	○						○		○			87.6	0.3	A	75	55	◎
	6	一	文章の展開に即して情報を整理し、内容を捉える	○						○		○			79.9	0.4	A	75	55	◎
	6	二	文章の構成や展開について自分の考えをもつ	○						○		○			64.9	0.5	B	70	50	
	7	一	話の展開などに注意して聞き、自分の考えと比較する	○						○		○			68.4	0.5	A	75	55	
	7	二	互いの発言を検討して自分の考えを広げる	○						○		○			60.7	0.6	B	70	50	

設問別集計結果

問題番号	出題の趣旨	学習指導要領の内容・領域等				評価の観点				問題形式			活用 「活用」に関する問題	県正答率	県無解答率	期待正答率			到達状況
		話す・聞く	書く	読む	漢字の読み 漢字の書き	漢字に関する知識	①話す・聞く	②書く	③読む	④知識・理解・技能	選択式	短答式				記述式	問題分類	十分達成	
8	一	奥付の特徴や役割を理解する			○				○	○			83.4	1.2	A	75	55	◎	
8	二	奥付を使って本についての情報を得る			○				○	○			60.4	1.4	B	70	50		
9	一1	文脈に即して漢字を正しく書く						○		○			84.4	6.2	A	75	55	◎	
9	一2	文脈に即して漢字を正しく書く						○		○			23.4	11.8	B	70	50	▼	
9	一3	文脈に即して漢字を正しく書く						○		○			90.8	4.9	A	75	55	◎	
9	二1	文脈に即して漢字を正しく読む			○				○	○			97.4	1.3	A	75	55	◎	
9	二2	文脈に即して漢字を正しく読む			○				○	○			95.6	1.6	B	70	50	◎	
9	二3	文脈に即して漢字を正しく読む			○				○	○			82.4	4.7	B	70	50	◎	
9	三ア	語句の意味を理解し、文脈の中で適切に使う						○		○			88.5	0.6	A	75	55	◎	
9	三イ	語句の意味を理解し、文脈の中で適切に使う						○		○			96.2	0.5	A	75	55	◎	
9	三ウ	語句の意味を理解し、文脈の中で適切に使う						○		○			57.6	1.1	B	70	50		
9	三エ	語句の意味を理解し、文脈の中で適切に使う						○		○			95.1	0.6	A	75	55	◎	
9	三オ	語句の意味を理解し、文脈の中で適切に使う						○		○			53.8	0.8	B	70	50		
9	四ア	辞書を活用し、漢字が表している意味を正しく捉える						○		○			57.6	1.1	A	75	55		
9	四イ	辞書を活用し、漢字が表している意味を正しく捉える						○		○			61.9	1.0	B	70	50		
9	五	文の成分の照応について理解する						○		○			48.6	1.3	B	70	50	▼	
9	六	文字の形や大きさ、配列に注意して書く						○		○			37.6	1.5	A	75	55	▼	
9	七1	歴史的仮名遣いを現代仮名遣いに直して読む						○		○			79.3	4.6	A	75	55	◎	
9	七2	歌に表れた作者の思いを想像する						○		○			94.4	2.1	B	70	50	◎	
B 問題	1	一	文章の中心的な部分と付加的な部分とを読み分け、要旨を捉える			○			○	○			72.4	0.1	B	70	50	◎	
	1	二	目的に応じて必要な情報を読み取る			○			○	○			81.5	0.1	A	75	55	◎	
	1	三	文章の構成や表現の仕方について、根拠を明確にして自分の考えを具体的に書く	○	○				○	○	○			51.6	7.8	D	60	40	
	2	一	文章の構成を捉える			○			○	○	○			63.0	0.1	C	65	45	
	2	二	目的に応じて文章を要約する			○			○	○	○			61.9	0.2	B	70	50	

設問別集計結果

問題番号	出題の趣旨	学習指導要領の 内容・領域等				評価の観点				問題形式			活用 「活用」に関する問題	県正答率	県無解答率	期待 正答率			到達状況
		話す・聞く	書く	読む	漢字の読み 漢字の書き	語句に関する知識	①話す・聞く	②書く	③読む	④知識・理解・技能	選択式	短答式				記述式	問題分類	十分達成	
2	三	課題を決め、それに応じた情報の収集方法を考える	○	○								○	○	34.8	7.6	D	60	40	▼
3	一	文章の展開に即して内容を理解する		○							○	○	68.8	1.3	B	70	50		
3	二	目的に応じて必要な情報を読み取る		○						○	○	○	62.9	0.8	B	70	50		
3	三	本や文章などから必要な情報を読み取り、根拠を明確にして自分の考えを書く	○	○								○	○	36.6	22.7	E	55	35	

(4) 地域別の正答率

- 県内5地域の国語の学年別平均正答率の対県比は[表6]のとおりで、依然として地域間の学力差が見られる状況にあり、5学年中2学年で、昨年度と比べて地域差が拡大している。
- 学年別平均正答率の「十分達成」に対する状況は、5地域とも、小・中学校全ての学年で「おおむね達成」の基準を上回っている。[グラフ12]

[表6] 県内5地域における学年別平均正答率の対県比

学年・教科	実施年度	対県比(地域平均正答率/県平均正答率)					地域差	
		佐城	三神	東松浦	杵西	藤津		
小学校5年生	国語	H28	1.00	1.02	0.96	1.00	1.03	縮 0.07
		H27	1.02	1.00	0.93	1.00	1.06	▲ 0.13
小学校6年生	国語	H28	1.02	1.00	0.95	0.99	1.03	拡 0.08
		H27	1.01	1.01	0.96	1.00	1.01	0.05
中学校1年生	国語	H28	1.01	1.01	0.97	1.00	1.01	0.04
		H27	0.99	1.02	0.98	1.02	0.99	0.04
中学校2年生	国語	H28	1.00	1.04	0.97	0.98	1.00	0.07
		H27	0.98	1.03	0.96	1.02	1.02	0.07
中学校3年生	国語	H28	1.00	1.02	0.96	1.01	1.01	拡 0.06
		H27	1.01	1.01	0.98	1.00	0.98	0.03

※ 「対県比」は、県平均正答率を1.00として算出

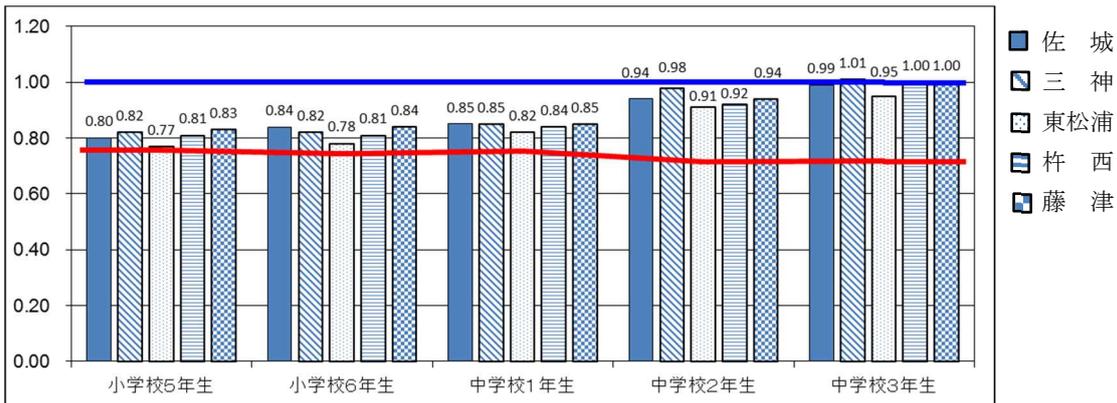
※ 「地域差」は、対県比の最大値と最小値の差を表す

※ 「▲」は、地域差が0.10以上の教科を示す

※ 「拡」は、平成27年度調査より地域差が拡大した教科を、「縮」は縮小した教科を示す

[グラフ12] 県内5地域における学年別平均正答率の「十分達成」に対する状況

※ 各学年における「十分達成」の正答率を1.00として算出



※ 地域及び市町名

地域名	市町名
佐城	佐賀市、多久市、小城市
三神	鳥栖市、神埼市、吉野ヶ里町、基山町、みやき町、上峰町
東松浦	唐津市、玄海町
杵西	武雄市、伊万里市、白石町、大町町、江北町、有田町
藤津	鹿島市、嬉野市、太良町